

学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する 調査研究（3年次／3年）

大分県教育センター教科研修・ICT推進部

指導主事 竹内 悟

I 研究の背景と目的

小・中・高等学校の学習指導要領総則（平成29年・30年告示）において、初めて全校種にわたって「キャリア教育の充実」が示された。大分県においては、子ども・若者の進路・職業意識の希薄さや社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題等への対応が求められており、大分県長期教育計画（「教育県大分」創造プラン2016）改訂版〈令和2年3月〉に「キャリア教育・職業教育の充実」を明記し、キャリア教育を推進している。

そこで本研究は、3年計画で大分県のキャリア教育について現状を把握するとともに、実践事例を収集及び周知することで、キャリア教育に関する大分県教育センターにおける研修の充実を図り、大分県の更なるキャリア教育の推進に資することを目的とする。

II これまでの調査研究の結果

調査研究の1年次では、キャリアノート及び学級活動・ホームルーム活動についての実態を把握し、今後の課題を明確にするため、アンケート調査を行った。アンケートは、令和4年度に県教育センターで実施した小・中・高等学校の教諭（在職1年目～11年目）対象の研修受講者（n=862）に行った。アンケートの結果から、「キャリア教育について教員側の十分な理解を図ること」と、「キャリア教育に関する具体的な実践事例を収集し周知すること」の2点が課題として挙げられた。

2年次では、令和5年度の当センターのテーマ別研修において「キャリア教育研修—学年間・校種間の連携—」を新設し、令和5年度と令和6年度の2回（延べ81名参加）実施した。受講後の各受講者の研修評価から、キャリア教育の目的や意義及び各教科との結びつきに対する理解など一定の研修効果が得られた。一方で、校種間の連携の在り方やキャリアノートの活用方法等に課題が挙げられた。また、研究協力校4校に依頼し、キャリア教育の実践事例を収集することができた。

III 3年次の調査研究の内容

1 調査方法

1年次、2年次の調査研究結果を受け、本年度は研究協力校4校の生徒を対象に、キャリア教育に関するアンケートを実施し、その結果を分析することで各校の取組の有用性を検討すること、また、学校現場への還流という観点から収集した実践事例の周知を行うために、当センターにおけるキャリア教育に関する研修の充実につなげることを主な内容とした。

1-1 研究協力校4校について

研究協力校4校については、臼杵市立臼杵南小学校（以下、臼杵南小学校）と臼杵市立南中学校（以下、南中学校）を小・中の連携という観点から、大分県立大分豊府中学校（以下、大分豊府中学校）と大分県立大分豊府高等学校（以下、大分豊府高等学校）を中・高の連携という観点から、2年次に引き続き協力を仰いだ。

臼杵南小学校と南中学校は、臼杵市が取り組んでいる「小中一体教育」の連携校として、義務教育

9年間を見通した系統的な教育を目指している。その中で、キャリア教育に関しても小学校と中学校の連携を意識し、教職員一人一人がキャリア教育についての理解を深めながら、合同研修会を実施するなどしてその取組の充実を図っている。なお、この2校については、校区外からの通学が可能な小規模特認校である。特に南中学校では、「将来の夢や目標をもっている」と答える生徒の割合が低いことは学校課題の1つであった。

大分豊府中学校と大分豊府高等学校は、併設型中高一貫教育校であり、中学校と高等学校が同じ教育目標のもと6年間継続した教育を行っている。中高で連携した多様な教育活動を展開する中で外の世界を見る「窓」を作り、「感性」を育むことを目指し、中高6年間で「つくりたい未来」や「進むべき道」を見つけられるようキャリア教育の視点に立った教育活動に取り組んでいる。

1-2 アンケートの実施について

研究協力校4校の児童生徒を対象に「学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究に係る児童(生徒)へのアンケート」をWebアンケートによる回答で、令和6年7月～令和6年12月の期間に、計3回実施した。主に「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング力」の4領域に関連する16の質問項目と「学校独自項目」の2～5つの質問項目で構成し、5件法で実施した(【別添資料】1-1参照)。なお、母数の小さい臼杵南小学校及び南中学校については、「学校独自項目」の中に記述形式の問いを設定し、個の変容を見取るとともに、経年変化を調査した。各学校の対象学年及び学年別人数は表1の通りである。

表1 アンケート対象学年及び学年別人数

学校名	対象学年	学年別人数(人)
臼杵南小学校	4年	12
	5年	8
	6年	8
南中学校	1年	13
	2年	12
	3年	11
大分豊府中学校	1年	120
	2年	120
	3年	120
大分豊府高等学校	1年	240

1-3 アンケートの分析について

各校におけるアンケート1回ごとの単純集計を行い、各回の結果を比較・分析し、学校別の児童、生徒の変容を見取った(【別添資料】1-2参照)。なお、各回の数値比較をするために、3回のアンケート全てに回答した児童生徒のみを抽出し分析を行った。また、令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙回答結果からみられた県全体の課題としても挙げられている「将来の夢や目標をもつことができている」という項目に対する肯定的回答割合にも着目し、数値の変容を見取った。

IV 調査・研究の結果

1 臼杵南小学校の取組

臼杵南小学校では、「キャリア教育推進計画」を作成し、年間のカリキュラムの中にキャリア教育を位置づけている(【別添資料】2参照)。育成を目指す能力(担任の思い)を設定し、これまで実践してきた各種教育活動とキャリア教育とのつながりを整理し、計画的にキャリア教育を進めている。第6学年のカリキュラムでは、特に「米づくり活動」「道徳教育」「環境教育」「卒業プロジェクト」の取組を重点的取組とし、キャリア教育で育成する4つの力を系統的に育成している。

1-1 アンケート結果からみる児童の変容

臼杵南小学校の3回のアンケート結果をみると、学校全体の平均において、各回で多少の増減はあるもののキャリア教育で育成する4つの能力がバランスよく育成されていることがわかる。また、図1に示すように、学校独自項目に

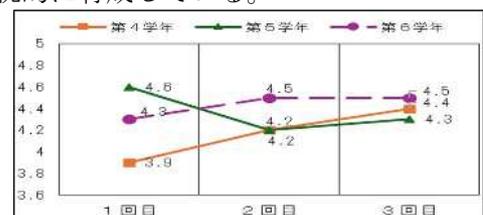


図1 学校独自項目における数値平均

対する数値平均が第5学年、第6学年の児童の回答では、全ての回で4.0ポイントを超えている。第4学年に関しても、数値平均が上昇していることから、米づくり活動などの学校独自の取組が児童の肯定的な変容に結びついていることがわかる。

1-2 アンケートにおける記述形式回答の変容について

回答の変容をみると、1回目では田植えの際の注意点を回答していた児童が、2回目の回答では実際に米づくりを体験する中で感じたことをもとに、育ててくれている地域の方への感謝が大切だと気付いたことがわかる。米づくり活動を通して他者との協働が大切であることを実感できている児童が多くみられた。

2 南中学校の取組

南中学校は、小規模特認校として、キャリア教育の推進を学校の重点的取組の一つに位置づけ、職場体験学習などの学校行事だけでなく、各教科でキャリア教育の視点を意識した授業実践を行っている。学校教育目標の中に「つなげる」というキーワードを入れ、様々な教育活動のつながりを意識するとともに、「自分らしい生き方」をテーマに、生徒、教職員はもとより、保護者や地域と連携を図りながら、授業を含めた中学校での学習活動が生徒一人一人の将来につながるような取組を進めている（【別添資料】3-1、2参照）。

2-1 アンケート結果からみる生徒の変容

南中学校のアンケート結果をみると、キャリア教育で育成する4つの能力のうち「自己理解・自己管理能力」と「課題対応能力」についての項目に対する回答に大きな変容がみられた。図2に示すように、「自分の苦手なことを克服しようと努力している」についての肯定的回答割合は22ポイント増加している。また、「うまくいかなかったとき、その原因を探し、改善しようとする事ができる」についての肯定的回答割合も16ポイント増加している。その要因として「炭活動」が挙げられる。今年度は10月と12月、1月に炭づくりを行っている。炭活動に関する項目についても肯定的回答割合が67→85→95ポイントと段階的に上昇する結果となった。なお、10月の炭活動では、良い炭が思うようにつくれず、生徒は炭活動を通して失敗体験を経験することとなった。そこから炭窯の修理等、炭づくりの方法を改善していき、12月の炭活動では、良い炭を多くつくる事ができた。このように、生徒は試行錯誤する機会が得られる体験活動を通して、「課題対応能力」に必要なレジリエンスを高めていることがわかる。

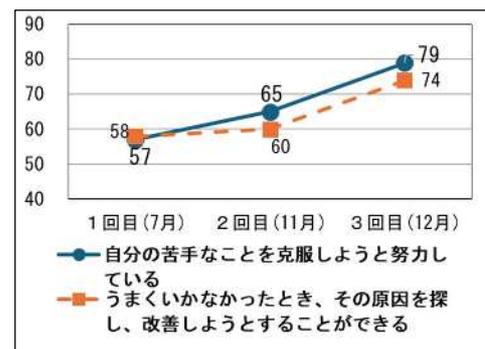


図2 項目別肯定的回答割合の変化

2-2 アンケートにおける記述形式回答の変容について

南中学校の記述回答をみると、2回目の回答以降、1回目よりも他者とのつながりについての回答が増えており、体験活動を通して、他者との協働的な学びが実現していることがわかる。また、学校独自の活動に誇りを持ち、取組の有用性を実感している生徒も多いことが記述内容からも判断できる。

3 項目「将来の夢や目標をもつことができている」に対する回答変容について

臼杵南小学校と南中学校における「将来の夢や目標をもつことができている」の項目についてのアンケート結果（肯定的回答割合）は表2の通りである。臼杵南小学校の数値変容をみると、全ての回で70ポイントを超えており、特に、第6学年では、2回目と3回目の肯定的回答割合が高く、数値が上昇した児童については、学校独自項目の「米づくり活動にすすんで取り組んでいる」に対する数値も併せて上昇している。次に、南中学校の数値変容をみると、学校全体では16ポイント上昇して

いることがわかる。また、数値が上昇した生徒については、ゲストティーチャーの取組に関する項目や炭活動に関する項目に対する回答もそれぞれ上昇していることから、南中学校の取組が生徒の自己肯定感の向上に結び付いていることが推察される。なお、臼杵南小学校及び南中学校の臼杵市基礎基本テスト児童生徒質問紙の項目「将来の夢や目標を持っている」の令和3年度からの数値変容を図3に示す。同項目に対する肯定的回答の割合は、南中学校において段階的に上昇していることがわかる。このように、この2校では、長期的な生徒の変容を見取りながら取組の改善に努め、キャリア教育の充実を図っている。

4 大分豊府中学校・大分豊府高等学校の取組

中学校・高等学校が連携し、「高校生サポーター」「中高パネルディスカッション」を学級活動の時間を使ってそれぞれ年2、3回ずつ実施している。「高校生サポーター」は、高校生が中学生の各教室に出向き、学習だけでなく将来の夢や進路選択、この先の高校生活についてなどを座談会の形式で中学生と交流する取組である。「中高パネルディスカッション」は、進路実現をテーマに、高校生が中学生からの質問に答えながら将来について共に考える取組を行っている。

中学校の取組としては、自己の成長を振り返ることができるポートフォリオの作成や生徒会活動と連動した「my way project」(なりたい自分の実現に向けた長・短期目標の設定と自己評価)に取り組んでいる。さらに、休日特別講座「大分花園中学校」では、会の運営は生徒が行い、他学年と共に課題解決に向けた学びを展開している。個々の興味関心によって様々な専門分野について学べるだけでなく、学ぶことの楽しさを味わえることに加え、多様な人材との出会いによって職業観や将来の生き方についても視野を広げられる機会となっている(【別添資料】4参照)。

4-1 アンケート結果からみる生徒の変容

アンケートの数値に関しては全学年とも安定して高い数値を保っていることがわかった。年間、学年、学校種間のつながりを意識したキャリア教育の推進に加え、中学校受験を経て入学してきた生徒たちの多くが、日々自らの学びに対する達成感を味わえていることも背景にあると考えられる。項目の「将来の夢や目標をもつことができている」に対する肯定的回答が約70ポイント、「いろいろな仕事(職業)についても知りたいと思っている」の肯定的回答が約80ポイントであることから見ても、様々な教育活動の中で、自らの学びや成長、新たな目標の設定が位置付けられていることで、自己のキャリアプランニング力を育てていることが伺える。また、アンケート結果の人間関係形成・社会形成能力の全体の数値平均が4.2ポイントと高くなっていることから、生徒の自主性や交流を意識した教育活動が日々位置づけられているといえる。

5 学年間・学校種間の連携の在り方について

学年間の連携では、学年末に1年間の学びを振り返る活動が重要となる。南中学校では、総合的な学習の時間や各教科等での学びを振り返る活動を特別活動の時間に行っている。主に、総合的な学習の時間での実践を通じた学びを蓄積している学校独自のキャリアノートをもとに1年間を振り返り、さらに県版のキャリアノートを用いて振り返りを行う。生徒自身が1年間の学びを振り返るととも

表2 「将来の夢や目標をもつことができている」に対する肯定的回答割合

学校名	1回目	2回目	3回目
臼杵南小学校	77	73	76
南中学校	48	50	64

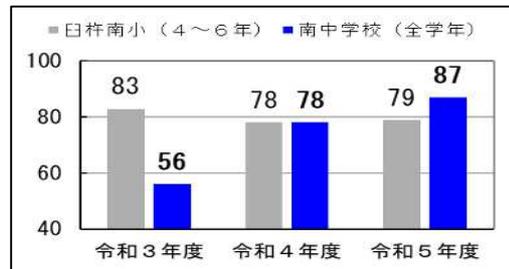


図3 項目「将来の夢や目標をもつことができている」に対する経年変化

に、その学びを次の学年へと円滑につなぐことができる活動となっている（【別添資料】5参照）。

学校種間の連携については、研究協力校4校において、校種間でのキャリアノートの円滑な引継ぎが行われている。さらに、臼杵南小学校と南中学校では、夏季合同研修会を実施し、教職員間での情報交換や情報共有を行うことを通して連携を進めている。また、大分豊府中学校と大分豊府高等学校では、中学生は高校生をロールモデルとしてキャリアを形成し、高校生は中学生と交流することで、自分の目標を再確認できるよう、中高一貫校ならではの特徴を活かした連携を進めている。

6 実践事例の還元及びセンターにおける研修の充実について

本調査研究において、研究協力校4校のキャリア教育に関する実践事例を多く収集することができた。これらの実践及び実践を通しての児童生徒の成長の姿を、本教育センターにおけるキャリア教育に関する研修の中で取り上げることで、実践事例の還元だけでなく受講者にキャリア教育の具体イメージを持たせることができると考えられる。さらに、キャリアノートを活用した振り返り活動の事例を取り上げることで、児童生徒一人一人の学びの足跡を蓄積していくことの意義や学年間・学校種間でのキャリアノートの引継ぎを意識できるような手立ても講じていきたい。

V 調査研究のまとめ

3年計画で行ってきた本テーマにおける調査研究であるが、1年次ではキャリア教育に関する実態調査を実施し、県内のキャリア教育の現状を把握することで、今後の課題を明確にすることができた。2年次では、1年次に挙げられた課題を改善するために、研究協力校4校を選定し、実践事例を多く収集することができた。また、当センターの研修においてキャリア教育研修を新設し、キャリア教育についての理解を図るための研修を行うことができた。3年次である本年度の調査研究では、研究協力校4校の児童生徒の変容を見取り各校のキャリア教育の取組の有用性を検証することができた。

図4は、令和5年度及び令和6年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童生徒の割合である。全国的にも課題として挙げられている同項目であるが、大分県においても令和5年度では、小学校、中学校ともに全国値を下回っていた。しかし、令和6年度の数値をみると、小学校、中学校ともに全国値を上回る結果となっており、改善傾向にあることがわかる。県内各校で取り組まれているキャリア教育が、これらの結果に結び付いていると推察できる。3年間の調査研究で得られた成果をもとに、当センターにおける研修の充実を図り、大分県のキャリア教育の更なる推進につなげていきたい。

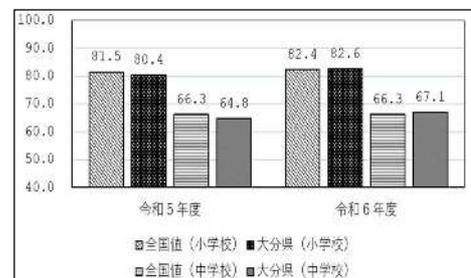


図4 全国学力・学習状況調査質問紙の項目「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答値

VI 参考文献等

- ・中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア・職業在り方について（答申）」平成23年1月
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育に関する総合的研究 第一次報告書」令和2年3月
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書」令和3年10月
- ・大分県教育庁義務教育課「教育課程編成・実施状況調査」令和5年12月

【はじめに】

キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力①～④を以下にまとめる。

【キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力】
①「人間関係形成・社会形成能力」

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

〈例〉 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなど

②「自己理解・自己管理能力」

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

〈例〉 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動など

③「課題対応能力」

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

〈例〉 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など

④「キャリアプランニング能力」

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

〈例〉 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善など

【別添資料 1 - 1】
【アンケート項目】

(1) 「人間関係形成・社会形成能力」に関する項目

- ① まわりの人に自分からあいさつすることができる
- ② ほかに人と協力して、いろいろな活動に取り組むことができる
- ③ 当番や係の仕事をお忘れずに取り組むことができる
- ④ 困っている人がいたら、すすんで助けることができる

(2) 「自己理解・自己管理能力」に関する項目

- ① 自分の良いところについて理解している
- ② 自分の良いところを伸ばそうと努力している
- ③ 自分の苦手なことについて理解している
- ④ 自分の苦手なことを克服しようと努力している
- ⑤ 将来の夢や目標をもつことができている

【回答選択肢（5件法）】

- 5 とてもあてはまる
- 4 ややあてはまる
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりあてはまらない
- 1 まったくあてはまらない

【実施期間】

- 1回目 7月～8月
- 2回目 10月～11月
- 3回目 12月～1月

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

(3) 「課題対応能力」に関する項目

- | |
|--|
| ① ほかの人とちがう意見でも、自分の意見を伝えることができる |
| ② 失敗してもあきらめずにがんばることができる |
| ③ うまくいかなかったとき、その原因を探し、改善しようとするすることができる |

(4) 「キャリアプランニング能力」に関する項目

- | |
|-----------------------------|
| ① 将来のために勉強することは大切だと考えている |
| ② 見通しをもって、やるべきことに取り組むことができる |
| ③ わからないことは、先生や友だちに聞くことができる |
| ④ いろいろな仕事（職業）について知りたいと思っている |

(5) 学校独自項目

[4校共通項目]

- | |
|------------------------|
| ① 学校の授業（各教科の授業）は楽しい |
| ② 学校の授業（各教科の授業）の内容は分かる |

[臼杵南小学校項目]

- | |
|---|
| ③ 米づくり活動にすすんで取り組んでいる |
| ④ 米づくり活動を通して、大切だと思うことやよかったと思うことを教えてください（記述） |

[南中学校項目]

- | |
|--|
| ③ ゲストティーチャーを招いての活動が、自分の将来について考える良い機会となっている |
| ④ 炭活動にすすんで取り組んでいる |
| ⑤ 炭活動を通して、大切だと思うことやよかったと思うことを教えてください（記述） |

【別添資料 1-2】

【アンケート結果】 ※報告書に記載しているデータは省略、その他報告書の記載に関わる部分のみ抜粋

○各校における1回目と3回目の数値比較

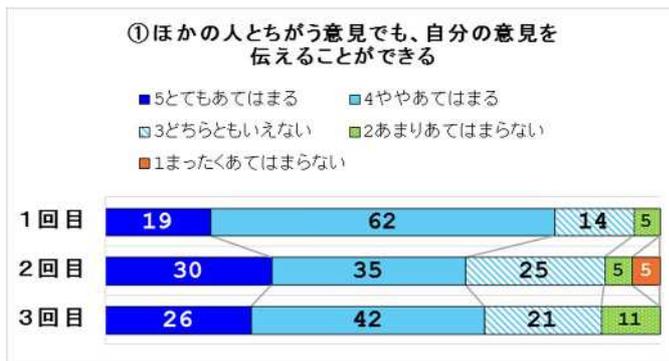
学校名 (対象)	実施回	各項目の数値平均				
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
臼杵南小 (全体)	1回目	4.3	4.2	4.2	4.3	4.3
	3回目	4.3	4.2	4.1	4.2	4.4
南中 (全体)	1回目	4.0	3.7	3.6	4.0	4.0
	3回目	3.9	3.9	4.2	4.0	4.0
大分豊府中 (全体)	1回目	4.4	4.0	4.2	4.2	4.2
	3回目	4.2	3.9	4.0	4.1	4.1
大分豊府高 (全体)	1回目	4.3	3.9	4.0	4.1	3.8
	3回目	4.2	4.0	4.0	4.1	3.9

※表中の項目(1)～(5)は、【別添資料1-1】で示してあるアンケート項目の(1)～(5)に対応

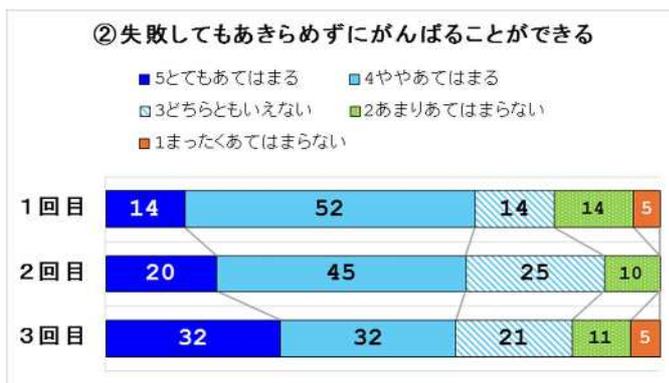
表に示すように、特に南中学校における「課題対応能力に関する項目」に対する数値平均が上昇する結果となっている。
--

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

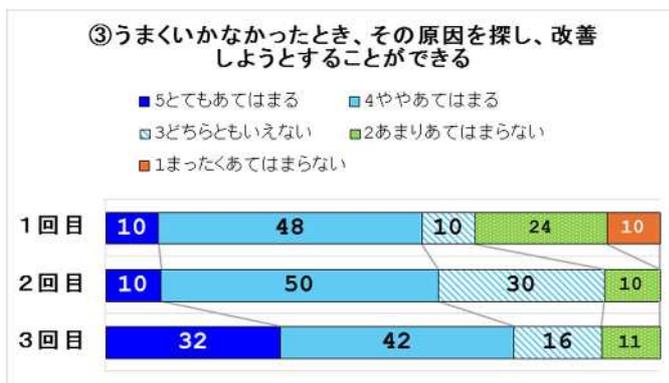
○南中学校（全体）における「課題対応能力」に関する項目に対する回答割合の変化



②、③の質問項目に対して、肯定的回答のうち、「5とてもあてはまる」の回答割合が増加しており、自分の考えを明確にし、自信をもって回答する生徒が増えていることが推察できる。



③の項目に関しては、3回目の回答結果に大きな変化が見られる。2回目と3回目のアンケート実施の間に、今年度2回目の炭活動が実施された。1回目の炭活動での失敗を生かし、2回目の活動ではよい炭をつくることができたという成功体験ができたことが要因だと考えられる。



★生徒は試行錯誤する機会が得られる体験活動を通して、「課題対応能力」に必要なレジリエンスを高めていることがわかる。

○記述式回答の変容（※同様の内容はまとめて表記している）

【臼杵南小学校】

質問項目「米づくり活動を通して、大切だと思うことやよかったと思うことを教えてください」

1回目の主な記述内容	2回目の主な記述内容	3回目の主な記述内容
<ul style="list-style-type: none"> ・土に空気を入れることやしっかり植えること（14） ・みんなで協力すること（4） ・地域の人との交流（3） ・お米を大切にすること（2） ・家では出来ない事が出来て楽しい ・南っ子祭りで使うから 	<ul style="list-style-type: none"> ・土に空気を入れることや、稲が倒れないようにすること（6） ・みんなで協力したり、他の学年との仲を深めること（6） ・愛情をこめて植えること（3） ・お米を大切にすること（3） ・地域の人への感謝、人とのつながり（2） ・達成感がある ・おいしいお米をつくと気持ちがいい 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で協力してお米をつくること（6） ・丁寧に作業すること（5） ・土に空気を入れることや、水回りの管理（5） ・お米を大切にすること（3） ・お米がたくさんできてうれしい（3） ・いつも体験できない事ができたこと

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

【南中学校】

質問項目「炭活動を通して、大切だと思うことやよかったと思うことを教えてください」

1 回目の主な記述内容	2 回目の主な記述内容	3 回目の主な記述内容
<ul style="list-style-type: none"> ・全校で協力したり、まわりの人と協力したりすること（5） ・炭の作り方や使われ方を知ることができる（4） ・自分から進んで活動に取り組むこと ・炭を売ったらお金になること ・全力で取り組むこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力していいものをつくらうとすること（まわりとの協力）（11） ・きびきびと行動すること ・自分から行動すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな人と協力して一緒に活動すること（まわりとの協力）（5） ・他学年や先生方とのつながりができる（2） ・全校での活動は他の学校ではできないと思うので良い

○大分豊府中学校・大分豊府高等学校における、項目（2）⑤「将来の夢や目標をもつことができている」、（4）④「いろいろな仕事（職業）について知りたいと思っている」についての肯定的回答割合の推移

【大分豊府中学校】

項目	実施回		
	1 回目	2 回目	3 回目
(2) ⑤	67	60	66
(4) ④	78	76	77

【大分豊府高等学校】

項目	実施回		
	1 回目	2 回目	3 回目
(2) ⑤	61	74	71
(4) ④	83	73	81

★様々な教育活動の中で、自らの学びや成長、新たな目標の設定が位置付けられていることで、自己のキャリアプランニング力を育てていることが伺える。

【別添資料 2】

臼杵南小学校のキャリア教育全体計画

キャリア教育推進計画
学校全体目標 将来の夢や希望を持ち、自己実現を目指す態度の育成

育成を目指す資質能力(担任の思い)
 ◆思い1 (人間関係形成・社会形成能力) 友だちの考えや立場を認め、目的に向かって高め合う仲間になってほしい。
 ◆思い2 (自己理解・自己管理能力) 自分の仕事や活動に責任や見通しを持って最後まで取り組んでほしい。
 ◆思い3 (課題対応能力) 社会に関心を持ち情報を集め、主体的に問題解決に向かう力をつけてほしい。
 ◆思い4 (キャリアプランニング能力) 実社会の様々な仕事を知り、働くことの大切さ、やりがい、苦力を理解してほしい。

基本姿勢
 ◆基本姿勢1 全教科・領域を通じた育成
 ◆基本姿勢2 体験的な活動の取組
 ◆基本姿勢3 地域リソースとの連携
 ◆基本姿勢4 発達段階に応じた取組

教育活動の具体
 4つの重点的取組
 I 道徳教育
 II 米づくり活動
 III 環境教育
 IV 卒業プロジェクト

小規模特設校
 少人数の強みを生かした個別最適な学び
 縦割り班と(縦軸)と地域連携(横軸)で
 きめ細かな教育支援と個別最適な学びを実現

Strength
 キャリア教育推進に
 おける 南小の強み

小中一体教育
 中学校キャリア教育との接続
 公開授業の相互参加やキャリアアノートの活用で
 次のステージへの確かなキャリアパスを形成

・臼杵南小学校の実態に合わせ、育成したい力を自分たちの言葉でわかりやすく示している。

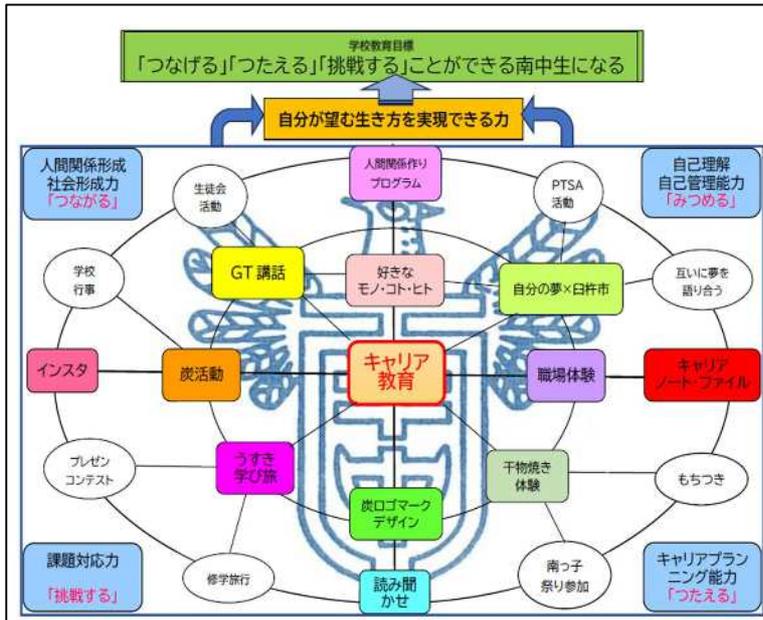


★児童、教職員と共有できるような具体的なわかりやすい内容にしている。
 ★「重点的取組」を設定し、カリキュラムに位置づけることで取り組みやすい。
 ★カリキュラム・マネジメントの促進がされている。

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

【別添資料 3-1】

南中学校キャリア教育構想図



南中学校では、生徒が勤労観や職業観をもち、社会的に自立できる力を「自分が望む生き方を実現できる力」とし、この力の育成に向けキャリア教育構想図を作成している。



★つながりを可視化することで、生徒と教職員が共通した認識を持ちやすくなり、取組内容と育成する力との関連が明確になる。

【別添資料 3-2】

各教科とキャリア教育の結びつき（南中学校キャリアファイルから抜粋）

～自分が望む生き方を実現していける力～

	人間関係形成能力・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリアプラン ニング能力
	つながる	みつめる	挑戦する	きめる (つたえる)
国語	話し合いやスピーチ等で相手の考えや立場を理解しながら聞く。 話し合いやスピーチ等で相手を尊重しながら自分の意見を伝える	自分の経験と結び付けながら文章を読む。 ワークや漢字など、必要に応じて復習する。	話し合いのテーマや作文の課題を決定する。 根拠に明確にして、話したり書いたりする。	目的に応じて様々な資料から適切な情報を取捨選択する。 他の人の意見を聞いたり本や文章を読んだりして、自分の考えを深める。
社会	現代社会の課題とその解決策について話し合う。	さまざまな視点から歴史をとらえる。	資料を読み取り、自分のことばでまとめる。	社会生活のさまざまなしくみについて理解し、身近な生活や自分の将来と結び付けて考える。
数学	友達の考えと比較し、自分の考えを修正したり、深めたりする。	自分の得意・不得意を理解し、学習内容の定義が通むように努力する。	既習事項を活用して、新しい課題の解決に向けて粘り強く取り組む。	自分が考えたことを数学用語を使って相手にわかるように説明する。
理科	班員で協力して、班で観察・実験を行う。	物質や自然に関する事象・現象について自ら進んで学ぼうとする。	自然の事象・現象に疑問をもち、課題を設定し、計画を立てて解決する。	理科で学んだことや科学的な考え方をその後の学習や実生活に生かす。
英語	「まとまりのある英語を聞いて、真意や要点を適切に理解する。」 「聴いたり読んだりしたことについて、聴いたり読んだりした内容を話したり書いたりする。」 「目的や場面、状況などに合わせてコミュニケーションを図る。」	「質問や依頼などを聞いて適切に応じる。」 「伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる。」	「聴いたり読んだりしたことなどについて、情報をまとめる。」 「自分の伝えたい内容を相手に伝える。」 「伝えたい内容をまとめる。」 「伝えたい内容をまとめる。」	「聴いたり読んだりしたことなどについて、自分の考えや気持ちを話したり書いたりする。」
音楽	「音楽年と共に表現を工夫しながら合唱をつくりあげる。」 「音楽の特徴を文化、歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞する。」	自分や仲間との表現方法を学び、より豊かな合唱となるよう工夫する。	歌詞の内容や曲想を味わい、表現したい思いや意図をもって音楽をつくりあげる。	我が国や諸外国の音楽の特徴から、音楽の多様性を理解して鑑賞する。
美術	相手や自分の思いをおしはかり、相手の良い面に気づくようになる。	社会の情勢や情報をキャッチし、必要なものを取り入れ、自分の考えを表現したりして伝える。	課題に向き合う中で主題に迫るための効果的な表現方法を探る。	製作におけるコンセプトやお互いの思いや考えを知るとともに自分の思いをまとめて伝える。
保健	話し合い活動等を通して相手の意見や違いを尊重する。	自らの課題を見つけ、安全面に留意しながら取り組む。	できないことや分からないことに対して積極的に質問したり、他者と取り組む。	学んだことを普段の生活で実践し、自分や他者と健康を目指す。
技・家	製作や実習等を通して失敗や成功を繰り返しながらクラスの仲間と交流し、信頼を深めていく。	学習や製作を通してその楽しさや完成の喜び、充実感や成就感を味わう。	学習に対して疑問に思ったことや分からないことは積極的に質問したり、自分で調べて理解を深める。	既習したものを実生活の中で実践し、家庭や社会の一員として自立を目指す。

・各教科とキャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力がどのように結びついているのかを生徒に示し、共有している。

(例) 国語科

「話し合いやスピーチ等で相手を尊重しながら自分の意見を伝える」

(人間関係形成・社会形成能力)



★それぞれの教科の中にすでにあるキャリア教育の要素（キャリアの断片）を見いだすことが大切（2014 筑波大学・藤田）。生徒が学ぶことと将来のつながりを見通せるものになっている。

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

【別添資料 4】

【大分豊府中学校の取組】

○ポートフォリオ

●自分が2学期間、特に頑張ったこと

第1位(Iris)
具体的に例をあげましょう。
Irisの合唱を頑張りました。リーダーという立場と伴奏者という2つの立場をするのは難しく大変でした。けれど、周りの人に助けをもらいながらやりとげることができました。

第2位(体育祭)
具体的に例をあげましょう。
実行委員としても3年生としても最初は課題だらけでしたが、話し合いを繰り返して各クラスや学年としての団結力が高まりました。

【評価基準：A(大変良い)・B(よい)・C(努力が必要)・D(大いに努力が必要)】

●係(委員会)の取り組み満足度 【A・B・C・D】
(評議) 係・委員会
理由 後期は呼びかけを少なくすることを目標にしていて、その目標を達成できています。クラスも自分で時計を見て行動する人が増えてきているから。

自分の学級目標達成度を書いてください。

●学級目標の達成度 【A・B・C・D】
理由 前はできなかったおんなげ苦勞をして何かをする「苦勞の功」ができたから。

2学期で特にできたこと(1つ)を挙げましょう。(複数記し、記入し損まで)

安全に気を付け落ち着いた生活ができる	進んで新しい考え方や方法を見つけ、自らの個性をいかした生活を工夫する	
時間を守って行動する	思いやりや感謝の気持ちをもち行動する	○
身だしなみに気をつける	思いやりで共に協力し、よりよく生きていこうとする	
道や相手にふさわしい挨拶や言葉づかいをする	進んで自然を愛護し、自然の生命を尊重する	
忘れ物がなく、提出物の期限を守る	進んで清掃やボランティア活動をする	○
自身の健康の保持増進と体力の向上に努めている	正と不正を明確め、公正・公平な態度をとる	
自ら進んで目標の実現に向け、頑張強く努力する	ルールやマナーを大切にすると共に公共のために役立つことを進んで行う	○
自分の役割を自覚し、最後までやり遂げる		○

3.【もう少し改善していきたいところ】
根拠強く努力することを改善したい。3学期は何かの卒業まで続けることを目標にする!!

- ・「学期で自分が頑張ったことについて記述する」等、項目で学期を振り返る。
- ・A・B・C・Dの4段階で自己評価する。
- ・学級目標も振り返りをさせる。

〈同じ生徒の1学期末の振り返り〉
「“だいすけ”の“だ”があまりできず、行動が全体的に遅かったので、次は何があるかを考えてすばやく行動できるようにする。」



- ★この生徒は1学期できてなかった目標が2学期は達成できたと自己評価している。
- ★振り返らせたポイントを明確にし、次学期の見通しを持たせている。
- ★ポートフォリオは、最後はキャリアノート(またはキャリアファイル)にためていき、これまでの自分を振り返ることができるよう足跡を残していく。

Omy way project

【目的】 スケジュール管理能力を培い、自分で目標を立てて継続する力を養う。

【内容】 生徒会による新たな取組として本年度後期より開始した。

将来なりたい職業やなりたい自分などの長期的な目標と、今月継続して実施したい短期的な目標を記述し、スケジュールを立てる。

11 2023 NOVEMBER

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

- ・この生徒は「計画性のある大人」を将来の目標とし、そのためには今月は「毎日目標(予定)をたてて行動すること」を目標とした。



- ★将来の夢、目標に向けてスモールステップで達成できそうな短期目標を立てることで自己管理能力の育成をめざす。
→書かせっぱなし、立てさせっぱなしにさせないように注意している。

【別添資料】学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

○休日特別講座「大分花園中学校」

【目的】自分で考え、自分で学ぶという自分で行動できるたくましさを育成する。

【内容】大学や一般企業を招き特別講座を年5回実施する。生徒は興味のある講座を自由に選択でき、保護者も参観することができる。

〈生徒への願い〉

Starting Point 学びの起点を。

人工知能をはじめとする科学技術の発展に加え、気候の変動や人々の価値観の多様化など、さまざまな要因が複雑にからみ合うことで、社会が激しく変わり続ける新時代となりました。

このような時代の中では、変化に自分たちを合わせていくような「柔らかさ」だけでなく、「つくりたい未来」を描き、自分たちで変化を創り出していく「たくましさ」、つまり、自分で考え、自分で行動できる「たくましさ」が必要となります。

また、新時代を生きる生徒のみならず、1人で閉じてしまうのではなく、他者や外界とのかかわりの中で、ウェルビーイングを求め続ける姿勢も必要となります。

そして、学校にとって、多忙な先生方の時間的余裕を基盤としたウェルビーイングの向上への対策も大切です。

これらの想いを形にした取組が、休日の特別講座、大分花園中学校です。

大分花園中学校で、大学の先生や企業の方が講師となり、専門的な内容について、実技や実践や対話を交え、1人では学べない学び、より楽しくおもしろい学びを展開します。

この「楽しい、おもしろい」という思いが起点となり、「もっと学びたい」や「他のことも学んでみたい」という考えを生み、「自分で学ぶ」という行動を生む。さらには、自分の将来を含め、みなさんが「つくりたい未来」を描き、行動していく――

大分花園中学校での学びが、自分で考え、自分で行動できる「たくましさ」の起点となることを期待しています。

1

〈講座・例〉

光るスーパーボール、スライム燃料電池を作成してみよう ーケールのナノ化学ー	崇城大学
誰が味方が！微生物を知って何になる？	崇城大学
ピンチの時の英会話	大分大学
導入編 計算機システムとその応用について	大分大学
ホームワイドで買える材料と工具でお湯で動く機械 「低温差スタースターリングエンジン」を作った	大分大学
プログラミングなどのソフト開発が、社会問題解決 できること	株式会社 オーシー
産物・インテリアの観点から災害時に必要な仮設構造 （防災ベッドやグランピング）について学ぶ	日本文理大学

〈生徒の生活ノートより〉

・花園中学校に参加しました。新鮮な気持ちでした。私は英会話とプログラミングを学びました。どちらも今後の将来に役立つことでした。学んだことを基に自分の将来について考えていきたいです。

〈受講後の生徒の感想〉

- ・何事もやってみなくてはわからないことを経験させてくれる講座だった。
- ・自分が普段触れない分野の楽しさや考え方、知識に触れて、物の見方が増えた。経験することで自分に落とし込めた。教科書にない勉強の大切さがわかった。

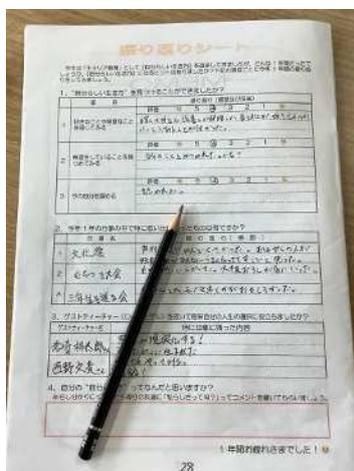


★将来に向けて自分と向き合う活動、学びと将来をつなげる活動が展開されている。
興味・関心に基づく勤労観や職業観の形成、自分の生き方の探索、自己理解につながっていく。

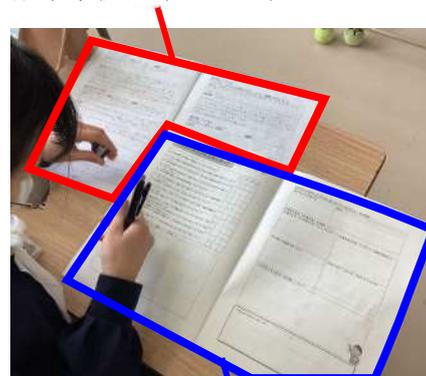
【別添資料5】

南中学校の学年末の実践（1年間の振り返り）

南中学校キャリアファイル
振り返りシート



南中学校キャリアファイル



大分県版キャリアノート

学年末の特別活動の時間に1年間の振り返りを行っている。生徒はまず南中学校キャリアファイルを見返しながら各教科や総合的な学習の時間等で実践してきた取組を振り返る。その後、大分県版のキャリアファイルに振り返った内容を記入している。



★学びの足跡を蓄積し、次年度へとつなぐことができる。

【別添資料】 学年間・学校種間の連携を図るキャリア教育の実践に関する調査研究

南中学校キャリアノート

〈Bさんの小学6年時〉

〈Bさんの中学3年時〉

6年生のわたし
記入日 3月 5日 金曜日

♪わたしってこんな人です♪

①自分の長所
寝る

②好きなこと・夢中になっていること
韓国ドラマを見る

③しよう来たる夢・目標
ドルフアントレーナー

④最高学年になってがんばること
授業にまつわる

⑤今年で小学校生活は最後です。なりたい自分についてまとめてみよう。
遊ぶ時間短縮して勉強時間増やして勉強している。おかげが早い人に近づけたはず

【大人からのメッセージ】

3年後

中学校3年生の私
記入日 6月 7日 木曜日

○今の自分を見つめて
今の自分(自分の好きなこと・もの、得意なこと・もの、頑張っていることなど)
私の自己PR(自分のよいところ)
こんな大人になりたい(将来の夢)
○なりたい自分になるために身に付けたいこと(目標)と、そのために取り組みたいこと

学習の目標
英語を勉強する

生活面の目標
朝早く起きる

家庭・地域での目標
親と仲良くする

その他(面白い事・資格取得など)の目標
料理が上手になる

そのために
英語の勉強をする

そのために
早起きをする

そのために
勉強の時間を増やす

そのために
早起きをする

【大人からのメッセージ】
このままじゃいけないから早く勉強して早く卒業して早く社会生活を送ってほしい。

★1冊のノートでこれまでの自分の足跡を見ることができるので、自分の成長を感じることができる。現中学3年生は5年生から書き始めているので、5年間の記録を1冊の中で見るができる。

★「目標達成のために取り組むこと」では、より具体的に書くことができるようになっていいる。

★Bさんは小学生の頃から同じ夢を持ち続けている。
中学3年生では、「今の自分を見つめて」という項目で、自分自身をしっかり分析できている。

【その他の実践紹介③】

南中学校の炭活動



原木の切り出し作業



窯への立て込み作業



炭の袋詰め作業



飾り炭づくり



干物焼き体験

・地域の方々と協働しながら行う南中学校の伝統行事。よりよい炭を作るにはどうすれば良いか、学年があがる毎に工夫が見られる。作った炭は保護者や地域に向けて重さを変えて袋詰めしたものを販売したり、季節に合わせた飾り炭に加工して販売したりしている。また、地元の高校生が作った魚の干物を自分たちで作った炭を使って焼いて食べるといった活動も行っており、中・高の取組の一つとなっている。

